

Abstract

症例報告

von Willebrand 病における偽腫瘍

Pseudotumour in von Willebrand disease

S. Wexler, M. Edgar, A. Thomas, I. Learmonth and G. Scott

偽腫瘍は血友病ではもともと稀な合併症であり、これまでに中等症～重症の血友病患者で報告されているが、軽症例ではさらに稀である。今回我々は、近位偽腫瘍が生じ、保存的療法により良好な回復がみられた 36 歳の軽症 von Willebrand 病 (vWD) 患者

について報告する。近位偽腫瘍では持続性出血と増悪のリスクがあるため、これまでは外科手術が最適な治療法と考えられてきた。しかしながら、軽症血友病または vWD では、特発性出血のリスクが低いため、保存的療法が適していると考えられる。



Fig. 1. (A,B) Radiographs of the proximal femur showing the typical ossified mass of a haemophilic pseudotumour.